

## 新春対談

## 若者の力で福井のまちを元気に!



県では、県民の皆さんが福井の未来にワクワクしながら積極的にチャレンジできる環境づくりを進めています。

令和8年の新春を迎え、熱い思いをもって挑戦を続けるお二人をゲストに招き、若者の挑戦を後押しする県の「チャレンジ応援ディレクター」と共に、「チャレンジ応援」をテーマに語り合いました。

## チャレンジ応援

福井県では若者のチャレンジを応援する取り組みが積極的に行われていますよね。どのような思いで若者の挑戦を支援されているのでしょうか。

寺井 全国でここまで若者の挑戦を応援している県はないと思います。約5年前にチャレンジ応援ディレクターになつてから、およそ5000人の若者に会い、いろいろな方の奔走支援をしてきました。何かをやりたいと考える若者の声を聞き、誰とつなぐのかを考え、一緒にやっていく。こうすることで「福井でもチャレンジしたいんだ」という空気が広がると考え、応援を続けています。

大川さんと洞難さんが活動を始めたきっかけを教えてください。

大川 中学生のときに不登校を経験しており、当時は社会で生きていく不安で考えも消極的でした。しかし、自分の好きなことをして生きている大人の背中を見て、就職だけが人生ではないと気が付きました。そこから現役中学不登校生として講演会を開催し、不登校生の思いを伝える活動をしました。その後、高校生のときに県公式キャラクター「ジュラチック」と出会い、PRイベントのMCに挑戦。それがきっかけでタレントになりました。

洞難 私の原点は3歳のときに父を亡くし、母に苦労をかけた経験です。当時は不平等を感じて悲しくなることもありましたが、自分自身がこれまでいろいろな人に支えられてきた経験から、次は自分が支える側になりたい、多くの子どもたちや保護者、昔の自分の母親や自分自身を救いたい、という意味も含めて、社会の拠り所になろうと、ひとり親家庭を支援する「YORIDO(ヨリド)」を立ち上げました。

大川 エキカルには初年度、アシスタントとして参加しました。日頃の疑問や思いを言葉にして共有できる、心強さのようなものを感じました。受講生がそれぞれ平等な立場で新しいチャレンジをしながら、仲間になつていく過程がすごく楽しくて、お願いして途中から私も生徒になりました。最近講師としても関わり、自分らしさを最大限に輝かせる場所をつくってほしいという思いでお話をしています。

## 地域を盛り上げる若者の育成

県では若者のチャレンジを応援し、背中を押すためにユニークな取り組みをされているそうですね。

寺井 まさにユニークな名称の「エキセントリック・カレッジふくい(通称エキカル)」です。福井には変わった発想をする人や、いろいろな経験をしてきた人など、面白い人がたくさんいます。このような人を増やせば福井はもっと面白くなるのでは、と思い「エキカル」をつくりました。毎年30人ほどの受講生が、各分野の専門家や著名人の講師の話を聞き、ディスカッションをしています。エキ



フリータレント  
おおかむ 大川 はるな さん

カレを開始して4年目になります。卒業生からも新たな面白い活動が次々と生まれています。

よくに思いますか?

洞難 若者自身が自分らしさをつぶしてしまふことがよくあると思います。エキカルを通して若者が自分らしさを発掘し、活躍の場を広げ、そして他の若者を応援する、この循環は素晴らしいと感じます。

寺井 講師の話を聞き、本音を語り合う中で、何を本当にやりたいのかを見つけ、覚醒する生徒も多くいます。タレントになったり、起業したり、高校生がNPO法人を設立した例もあります。エキカルの生徒だけではなく、福井全体に水の波紋のようにチャレンジする雰囲気広がっていると感じています。



「エキセントリック・カレッジふくい」大川さんの講義

大川 エキカルには初年度、アシスタントとして参加しました。日頃の疑問や思いを言葉にして共有できる、心強さのようなものを感じました。受講生がそれぞれ平等な立場で新しいチャレンジをしながら、仲間になつていく過程がすごく楽しくて、お願いして途中から私も生徒になりました。最近講師としても関わり、自分らしさを最大限に輝かせる場所をつくってほしいという思いでお話をしています。

## 若者のチャレンジ拡大

チャレンジする若者がもっと増えると嬉しいですね。

寺井 チャレンジする若者を増やすために、県では「チャレンジ応援フェス」や「チャレンジ応援文化祭」を開催し、若者の居場所と表現できるステージをつくっています。さらに県では「福井県ワクワクチャレンジプランコンテスト」を実施しています。審査により採択されたプランは支援金ももらえたり、伴走支援などが受けられます。昨年のコンテストでは、洞難



県 チャレンジ応援ディレクター  
てらい ゆうすけ 寺井 優介

福井県職員。若者チャレンジ応援と、福井のワクワクドキドキを全国に発信中!

寺井 テストでひとり親家庭の子どもたちの習い事支援をしたいという思いをぶつけました。コンテストで採択されたことがゴールではありませんが、これから、この格差の問題をどう解消できるかを考え、どんどんバージョン



YORIDO  
どうけい まなと 代表 洞難 真人 さん

福井大学医学部在学。ひとり親家庭を支援する団体「YORIDO」を立ち上げ、代表を務める。自身が母子家庭で育った経験から、食料支援や教育支援などを通じて、同じような境遇の親子に寄り添う活動を展開。



「福井県ワクワクチャレンジプランコンテスト2025」でYORIDOが採択

自身の背景や叶えたい想いを熱くぶつけていました。私自身もそのチャレンジを叶える一員になりたいと感じました。

大川 私はワクワクチャレンジプランコンテストに参加したのですが、洞難さんのプレゼンを聞き、採択が決まった瞬間は涙が出そう。感動しました。それほど参加者の皆さんは、自身の背景や叶えたい想いを熱くぶつけていました。私自身もそのチャレンジを叶える一員になりたいと感じました。

寺井 明らかにチャレンジを応援する空気が広がっていると思います。県では昨年、「チャレンジ応援エグゼクティブ(COE)」という制度を作りました。経営者が若者のチャレンジを応援する仕組みです。具体的には「チャレンジ登りゆう門」という企画を実施しています。若者が自分の挑戦をプレゼンし、COEに応援したいと思われたプランには、資金や場所の提供、メンターとしての伴走支援などが受けられます。県はそのマッチングの場を提供して、若者と経営者が一緒にやっていく、そんな仕組みを作っています。

寺井 明らかにチャレンジを応援する空気が広がっていると思います。県では昨年、「チャレンジ応援エグゼクティブ(COE)」という制度を作りました。経営者が若者のチャレンジを応援する仕組みです。具体的には「チャレンジ登りゆう門」という企画を実施しています。若者が自分の挑戦をプレゼンし、COEに応援したいと思われたプランには、資金や場所の提供、メンターとしての伴走支援などが受けられます。県はそのマッチングの場を提供して、若者と経営者が一緒にやっていく、そんな仕組みを作っています。

## 今後もチャレンジ!

最後に今後の抱負やメッセージをお願いします。

大川 不登校だった頃を思うと、こんな未来は想像していませんでした。今は、最高の毎日を送っています。当時は、正解に向かって生きたけれど、正解に向かっていたが、その経験を生かし、今悩んでいる不登校の子もまたや悩んでいる人々に「何を正解にするかは自分自身」と伝えたいです。「職業」大川はるな」として、テレビやラジオなどの仕事を通して、楽しみや希望を伝えていきたいです。また、歴史や旅も大好きなので、正解をつくらない旅の形を発信していきたいです。

この番組は、  
FBCテレビの  
HPで視聴できます。



番組をご覧いただいた  
方の中から抽選で  
プレゼントを進呈!



福井テレビで放送した新春特別番組は  
同局HPで視聴できます。

【テーマ】  
「こどもも先生もイキイキ チャレンジする福井の教育」

【ゲスト】  
江澤隆輔さん(坂井市立三国中学校教諭)  
片桐聡子さん(県立羽水高等学校教諭)  
増山温子(県 教職魅力発信ディレクター)



もらえたらと思います。

年にしていきたいです。

洞難 大学生や高校生、若い社会人にとつては、チャレンジしたいと思っても最初の一步を踏み出すのが一番難しいと感じます。私自身もそこでつまづいた経験があります。福井には応援してくれる人がたくさんいます。私も今チャレンジする身ではありますが、応援されながら応援する立場にもなりたいです。福井県の皆さんと一緒に、2026年を良い年にしていきたいです。

寺井 私は「チャレンジ応援を福井の文化に」とずっと発信してきました。熱量ある若者が確実に増えており、この輪をさらに広げていきたいと思っています。皆さんも、自分のお子さんや、家族、もしくは近くにいる人など、一人ひとりがチャレンジを応援してほしいと思います。今年は自分のチャレンジだけでなく、誰かのチャレンジを応援する一年にしたいです。